

標準型のカリキュラム〈学習の内容・目標と評価の観点〉

第4学年

第3・4学年㊦

◎めあて





心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ

試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する

形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
1学期・20時間	2～6時間 教科書8・9ページ	表現(2) [絵]	絵の具遊びから思いついたことをかいてたのしむ	絵の具で遊んで「自分いろがみ」	<p>☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、筆を使った技法以外の絵の具での遊び方を提示し、模様づくりや表現などをたのしみながら、でき上がったものを「自分いろがみ」としてストックする内容である。</p> <p>発展として「エリックカールの『はらぺこあおむし』」のようなコラージュによるキャラクターづくりや、さらにその発展として、そのキャラクターから単純なお話づくりをして絵として表現してもよい。また、「自分いろがみ」は今後の表現材料として取っておくと、さまざまな場面で活用できる。</p>	<p>関: いろいろな用具を使って、絵の具の様々な表現効果や用具の可能性に関心をもち、表現をたのしむ。</p> <p>発: 様々な表現効果の美しさやおもしろさを味わい、それをもとに発想を広げる。</p> <p>創: 筆以外の用具の扱いに慣れ親しみながら工夫する。</p> <p>鑑: お互いの表し方の工夫やおもしろさを味わう。</p> <p>[共] 絵の具遊びを通して、形や色の組み合わせをとらえ、自分の表したいイメージをもつ。</p>	<p>教師: 画用紙、色画用紙、ぼかし網、トレイ</p> <p>児童: 水彩用具一式、新聞紙、ストロー、歯ブラシ、スポンジ、ビー玉、その他の身近材料</p>	<p>様々な形や色による表現から、イメージを広げる題材である。3年生の「絵の具と水のハーモニー」から続く系統の題材で、高学年の「めざせ、ローラーの達人」へとつながっていく内容である。</p> <p>ここでは絵の具を使った様々な技法をいろいろと試して、それぞれの技法の習得をねらいとしている。</p> <p>中学校では、知識として、モダンテクニック、ドリップング、スパッタリング、デカルコマニーなどの言葉で学習する内容であるが、技法としてはこの題材で習得し、以降自分の表現として生かしていくようにするとよい。</p>
	2時間 教科書10・11ページ	表現(2) [立]	ねん土のとくちようを考え、いきいきとした動きのある動物をつくる	リズムにのって	<p>☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。</p> <p>ここでは、動物たちが音楽に合わせて踊り出したらたのしいだろうな、と想像したことを粘土で立体に表す内容である。</p> <p>粘土の可塑性を十分に生かせるようにすることが大切である。塊を大きくひねったり、つまみ出したりしながら動きのあるポーズが変化するたのしさや粘土という材料に夢中になってかわる感覚を十分に味わう。</p>	<p>関: 粘土の可塑性をたのしみながら、立体としてつくることに関心をもち、</p> <p>発: 生き生きとしたダンスの動きや生き物のたのしい表情などを想像力豊かに表す。</p> <p>創: 粘土の性質を十分に活用し、動きのあるポーズやたのしい表情を工夫する。</p> <p>鑑: みんなの作品を集めることで、いっそうたのしくなることを味わう。</p> <p>[共] 粘土をひねったり、つまみ出したりした塊の感じをとらえ、自分の表したい動きのある立体のイメージをもつ。</p>	<p>教師: 粘土1～2kg、粘土板、粘土べら、針金、竹ひご</p> <p>児童: めれタオル</p>	<p>粘土による立体の制作は、小さいものをたくさんつくったり、大きな塊で共同制作してきたり、個人で想像の動物をつくったりしてきた流れがある。中学年になって、やや大きな塊を使って1人で一つの作品に取り組む題材である。</p> <p>動きのある形をつくるが、心材を使わないので、細かい表現よりもバランスのあるどっしりとした量感を生かした表現になるように指導したい。</p> <p>量感のある形をつくり出すために、前だけでなく側面や後ろからも観察して制作に向かうことが、高学年やがては中学校の立体制作や彫刻への基礎力となっていく。</p>

1学期・20時間	4～6時間 教科書 12・13 ページ	表現 (2) Ⅰ	 角ざいなどをのこぎりで切ったり、木へんを組み合わせたりすることをたのしむ	ギンギン、コロコロ、たのしいなかも	<p>☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、のこぎりで角材を切り、形を組み合わせで思いついたものをつくったのしむ内容である。</p> <p>のこぎりという道具を使い、木とかかわっている実感や切ることに夢中になる遊びの感覚を大切にしながら、たる木や小割などをいろいろな形に切る。</p> <p>切った木切れを組み合わせでできた形から想像を広げ、遊んだり、見合ったりすることで、友達とのコミュニケーションの場をもつ。</p>	<p>関：木の感触に親しみながら、用具を使って木を切り、組み合わせでつくることに関心をもつ。</p> <p>発：切り取ってできる形や組み合わせでできる形から、つくりたいものの発想を広げる。</p> <p>創：用具の扱いに慣れ親しみながら、工夫してつくる。</p> <p>鑑：友達の作品に関心をもって見たり、一緒につくったりする。</p> <p>【共】 木切れの形や色、それらの組み合わせを試しながら、それらがつくり出す形の感じをとらえ、自分なりのイメージをもつ。</p>	<p>教師：角材、板材、木工用具、紙やすり、木工用接着剤、くぎ</p> <p>児童：木片、身近材料、カラーペン</p>	<p>手引きの両刃のこぎりあるいは方刃のこぎりで角材などを切ることを習得する題材である。角材を切ったり、万力を利用して切ったりなど、手引きのこぎりを使う際の技能を身につけるように指導したい。</p> <p>上級学年では、電動系のこぎりを扱ったり、ここで習得したのこぎりの扱いを生かして、木を材料とする工作に表したり、中学校では工芸の制作につながっていく基礎となる題材である。</p>
	4～6時間 教科書 14・15 ページ	表現 (2) Ⅱ	 色づくりや筆使いなどをくふうして、気に入った木をかく	木々を見つめて	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは身のまわりにあるものから感じたことをもとにテーマを見つけ、表し方をいろいろ試しながら表現する内容である。</p> <p>木々の形や色などの組み合わせや動き、自然のもつ生命感などに注目して、自分なりに感じた木々を表現する。表し方は、筆のストロークやタッチ、混色や重色などをいろいろ試して、自分が気に入った方法を工夫させたい。</p>	<p>関：身近にある木々から表したいことを見つけ、たのしく表現する。</p> <p>発：身近にある木々を見たり触れたりしたことから表したいことを思いつく。</p> <p>創：水彩絵の具や筆など用具のいろいろな扱い方を試し、表したい感じになるよう表し方を工夫する。</p> <p>鑑：自分の選んだ木々のよさを感じながら見たり、表現した自他の作品を、関心をもって見たりする。</p> <p>【共】 身近にある木をかくことを通して、木々の形や色の組み合わせなどの感じをとらえ、これをもとに自分の表したい木のイメージをもつ。</p>	<p>教師：画用紙（四つ切り）</p> <p>児童：水彩用具一式、その他必要に応じて鉛筆や水性ペンなど</p>	<p>木を対象としてよく見つめたり、触ってその感触を確かめたりして、木のもつ特徴や幹の感じをとらえ、色や筆遣いを工夫して描く題材である。</p> <p>見つめることや、絵の具の色使い、筆の扱いなど、中学年で学んできたことを大切に、表現を深めていく。この態度が高学年の絵画へとつながっていく。</p>

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
1学期・20時間	2時間 教科書16ページ	表現 (1) 遊	 えたとえだのつなぎ方をくふうして 思いついた活動をする	みんなでどんどん、むすんでつないで	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、木の枝と枝をひもでつなぐ活動から発想し、つなぎ方やつないだ形のよさ、美しさ、おもしろさなどを確かめながら表現する内容である。</p> <p>また、ある場所から枝をつないだり置いたりする活動を行ったり、つないだものを好きな場所に持っていく、活動をさらに広げるなど様々な展開をたのしむ。</p>	<p>関：木の枝などをひもでつなぐ活動をたのしみながら表す。</p> <p>発：材料の形や色、場所などを考えて、発想豊かに木の枝などをひもでつないでいく。</p> <p>創：枝と枝のつなぎ方や全体の様子などを考えながら、工夫してつないでいく。</p> <p>鑑：枝の形や組み合わせたときの感じやなど自分や友達の活動のよさやおもしろさに気づき、味わう。</p> <p>【共】 枝と枝をつなぐ行為から、枝の形や色の組み合わせなどの感じをとらえ、自分のしたい活動のイメージをもつ。</p>	<p>教師：木の枝、ひも、ビニタイ、小刀、のこぎり</p> <p>児童：木の枝</p>	<p>形が不定形の枝木をつないでいく造形遊びの題材である。</p> <p>低学年でいろいろな材料をつないできたが、その経験を生かして、集めてきた枝を組み合わせでつなぎ方を工夫し、つないではまた新しい形をつくり出していく題材である。</p> <p>ここでは、接着剤を使わないで枝をつなぎ合わせていく技法を習得したい。</p>
	2時間 教科書17ページ	鑑賞	 たがいの形や色の感じ方のちがいを たのしんだり、味わったりする	カードで味わう、形・色	<p>☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、まず、形や色を表す言葉を考えて「言葉のカード」をつくり、その言葉から思いついた形や色の感じを、色紙などを切ったり、絵の具などでかいたりして、「形・色のカード」をつくる。</p> <p>そして、つくった「言葉のカード」と「形・色のカード」を並べ、互いのイメージの違いやおもしろさを味わう内容である。</p>	<p>関：形や色で表すことをたのしむとともに、友達の表現にも関心をもって見る。</p> <p>発：言葉をもとに形や色の組み合わせを考え、いろいろと試しながら発想を広げて表す。</p> <p>創：言葉から思いついたイメージを形や色に生かしながら、工夫して表す。</p> <p>鑑：友達と互いのイメージの違いやおもしろさに気づき、味わう。</p> <p>【共】 自他の感じ方の違いを通して、形や色、組み合わせなどの感じをとらえ、これをもとに自分なりのイメージをもつ。</p>	<p>教師：画用紙（カード）、色画用紙、色紙など</p> <p>児童：はさみ、のり、カラーペン、水彩用具一式、雑誌、広告、包み紙など</p>	<p>いろいろな表し方や材料による感じの違いを鑑賞を通して体験する題材で、言葉から想像するイメージの違いを味わう内容である。</p> <p>3・4上では触覚感の違い、3・4下では言葉から思い起こすイメージの違いに焦点を当てている。</p> <p>中学年では、どちらも抽象的なものを目に見える形と色に表し、それを味わうという高度な内容である。</p>

2学期・24時間	4～6時間 教科書 20・21ページ	表現(2) 工	 かんたんなくみを生かして 動くおもちゃをつくる	パックパク	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。 ここでは、輪切りにした牛乳パックに割りばしをつけて動かす仕組みをつくり、牛乳パックのいろいろなところに紙を貼って、その動きからイメージを広げてつくりたいものを発想してつくる内容である。 つくりたいものに合った効果的な材料を選んだり、イメージに合った動きが生まれるように、紙の貼り方やつくり方を工夫したりする力を育てたい。	関：動く仕組みをもとに、つくりたいものを探したり、工夫したりしてつくる。 発：動く様子からイメージを広げ、つくりたいものを思いついたり、つくり方を考えたりする。 創：つくりたいものの動きに合った材料を選んだり、手順などを工夫したりしてつくる。 鑑：互いの作品を見て、工夫のよさに気づき、共感する。 【共】 動くくみから、思いついた形や色の組み合わせを考えて、自分のつくりたいおもちゃのイメージをもつ。	教師：割りばし、造形紙、色画用紙、モール、カッターナイフ、カッターマット、クリップ 児童：牛乳パック、はさみ、接着剤、カラーペン、セロハンテープ	身近な材料である牛乳パックを使った工作である。切った牛乳パックに割りばしをつけて動かし、その動きから想像しておもちゃをつくる題材である。 仕組みを使った工作の系列で、低学年では仕組みは限定された中でのおもちゃづくりであったが、中学年では、仕組みをつくる材料は簡単でも、その動かし方や発想力は、自分で考えてつくるところが高度になっている。
	2時間 教科書 22・23ページ	表現(1) 遊	 ざいりょうや場所のくちようから 思いつき、くふうして活動をする	いい場所見つけてかこんでみたら	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、校庭の木立や斜面、遊具など気に入った場所を面で囲うことから想像を広げて思いついた活動を工夫していく内容である。 仕切ることから生まれた空間と、様々な材料とのかかわりから見慣れた場所に対する感じ方が変わることをたのしみながら活動を展開していく。	関：場所を見つけ、囲むことから思いついた活動に意欲的に取り組む。 発：場所を囲むことから発想を広げ、材料を選びながらやりたいことを思いつく。 創：材料の扱いを工夫しながら表す。 鑑：囲んだ場所のおもしろさを感じたり、自分や友達の活動のよさを感じたりする。 【共】 ロール紙などでその場を囲む行為やその場所に合った活動を通して、形や色の組み合わせや自分でしたい活動のイメージをもつ。	教師：ロール紙、ストレッチフィルム、ラップ、段ボール 児童：水彩用具一式、身辺材	広い場所でのダイナミックな活動である。中学年のもつスピード感やエネルギーを生かして活動させたい。 広い場所をもとにした活動は、高学年になると、さらに空間や奥行きを感じる造形遊びへとつながっていく。材料や場所と存分にかかわれる時間を確保したい。
	4～6時間 教科書 24・25ページ	表現(2) 絵	 言葉やお話から想ぞうしたことを くふうしてかく	まほうの力をもつ時計	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、時刻を示す時計が、不思議な力をもっていたらどんなことが起きるか、みんなで話し合うことから自分なりにたのしく想像の世界を広げて考える。 これまでに経験した表現方法を生かしたり、新たな表現方法を見つかりたりして、そのお話を絵に表す内容である。	関：「不思議な力をもつ時計」という言葉から発想を広げてお話を考え、たのしく表現する。 発：「不思議な力をもつ時計」のお話を想像力豊かに発想し、表し方を考える。 創：表したいものの感じがよく表れるように、経験や発想を生かして絵の具や他の描画材料の扱いを工夫する。 鑑：自他の表現や感じ方のよさに気づく。 【共】 魔法の力をもつ時計という言葉やお話から形や色を思い浮かべて、それもとに自分の表したいもののイメージをもつ。	教師：画用紙、色画用紙、(四つ切り、正方形や細長い形のものも考えられる) 児童：水彩用具一式、クレヨン・パス、カラーペンなどこれまでに使ったことのある描画材料、包装紙など模様のきれいな紙類	言葉やお話から想像する絵画の系列の題材である。 低学年では、「できたらいいな、こんなこと」「ゆめのぼうけんものがたり」という自分の身のまわりの出来事に題材をとってきたが、中学年では、言葉やお話で想像を広げる世界が拡大してくる。高学年の「窓の向こうは…」につながっていく。 中学年らしい発想や想像力の広がりを大切にして取り組ませたい。技法としても、これまでに学んできた描画材を組み合わせるなど、様々な工夫も活かすよう指導したい。

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
2学期・24時間	4～6時間 教科書 26・27ページ	表現(2) [工]	 板やあつ紙を使って、生活に役立つ入れ物や箱をつくる	つくって、つかって、たのしんで	<p>☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。</p> <p>ここでは、棚や箱といった収納機能をもつものやその構造を、板や造形紙などの材料を使って制作し、実際に使うことを通して学ぶ取る。</p> <p>また、つくりたい内容に合わせて材料や用具を扱ったり、手順や方法を確かめたりしながら表す内容である。</p>	<p>関：棚や入れ物など、構造的で用途のあるものをつくることに関心や意欲をもつ。</p> <p>発：切った形などを組み合わせながら自分なりの用途や構造、全体の形を考える。また、つくる手順や方法などの見通しをもつ。</p> <p>創：つくりたいものの丈夫さや容量、美しさに合った材料や用具の扱いを工夫する。</p> <p>鑑：各々の表し方の違いや工夫のよさなどを感じ取り、伝え合う。</p> <p>【共】 板材や紙を材料として、その材料の形や色の組み合わせを試しながら、そのよさをとらえ、それをもとに、自分でつくりたいもののイメージをもつ。</p>	<p>教師：〈板の場合〉シナベニヤ板(厚さ3～4mm)、補助的に角材や胴縁材、枝など。木工用具、くぎ、紙やすり、木工用接着剤</p> <p>〈紙の場合〉厚口造形紙、接着剤、クリップ、カッターマット</p> <p>児童：身辺材、水彩用具、30cm定規、鉛筆、カッターナイフ</p>	<p>木材の工作の系列題材と、紙を主材料とする工作系列の選択的扱いの題材である。</p> <p>木工の系列としては、「ギコギコ、コロコロ、たのしいなかま」の、のこぎりの扱いから、高学年の電動糸のこぎりへとつながっている。</p> <p>また、紙工作の系列としては、「かみを立てたかたちから」のカッターナイフの扱いからつながる題材である。</p> <p>のこぎりの扱いは、高学年の工作、中学校美術(工芸)や、中学校技術へとつながっている。</p>
	4～6時間 教科書 28・29ページ	表現(2) [絵(版)]	 するたのしさから思いついたことをくふうして木はんに表す	ほると出てくるふしぎな花	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、最初の2時間では、彫らない木版画として刷りのたのしさを味わう活動を行う。インクの量や色の重ね方を工夫しながら、3～5枚のベースとなる紙の表現をたのしませる。次時は、この刷った紙の形や色から想像を広げ、版木の裏面に彫り、版をつくる内容である。これは高学年の彫り進み木版へ発展する活動であるが、ここでは2版を重ねて刷ると「彫ったところに下地(紙)の色が出てくる」ことを予想しながら、彫刻刀による彫りの違いをたのしむことに重点を置きたい。また、数枚の作品づくりの中で重ねるインクの色やつけ方の効果をいろいろ試しながら刷る。</p>	<p>関：インクをつけて刷ったり、版を彫刻刀で彫ったりするたのしさを味わう。</p> <p>発：刷りのたのしさから想像を広げ、彫りや刷りを工夫して表す。</p> <p>創：彫りや刷りなど、いろいろ試しながら効果的に表す。</p> <p>鑑：友達の表したかったことや彫りや刷りのよさを味わう。</p> <p>【共】 彫ると出てくる形や刷り重ねる色の組み合わせなどを試しながら、それらが作り出す形や色の感じをとらえ、自分の表したい版画のイメージをもつ。</p>	<p>教師：版画板、版画用紙、版画インク、ローラー、練り板、ばれん、ドライヤー</p> <p>児童：彫刻刀、タオル、新聞紙</p>	<p>「版に表す」題材の系列である。低学年では、雑材、紙などを版にしてきたが、ここで初めて彫刻刀の扱いを学ぶことになる。刀の扱いに十分気をつけて使い方に慣れることが大切である。</p> <p>上級学年でも使うので、ここで安全も含めて、しっかりと体験させることが大切である。</p>

2学期・24時間	2時間 教科書 30 ページ	表現(2) 絵	 形を変えた「自分マーク」をたくさんかく	ぎゅうぎゅうにつめ「むと」！	<p>☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。</p> <p>ここでは、どんなものに、それぞれの「自分マーク」を詰め込むとおもしろいか(自分マークと入れ物との関係)を想像し、話し合う。</p> <p>入れるものを決めたら、「自分マーク」をぎゅうぎゅうに詰め込むようにかいていく。「自分マーク」の形を自由に変形(デフォルメ)したり、表現に合わせて色を変えたりして、表現を工夫してかく。</p> <p>表現に応じて、必要なものをつけ加えて完成する。</p>	<p>関:形を自由に変形(デフォルメ)したり、色を変えたりしてかく表現に興味や関心をもつ。</p> <p>発:「自分マーク」と入れ物の形や用途などを関連づけて考え、たのしい「ぎゅうぎゅうづめ」の表現を思いつく。</p> <p>創:「自分マーク」の形や色を表現に応じて自由に変形(デフォルメ)したり、色を変えたりしてかく。</p> <p>鑑:「自分マーク」と入れ物の形や用途などの関連、形の変形など、形や色を組み合わせた表現のおもしろさやたのしさなど気づく。</p> <p>【共】 自分マークを入れ物にぎゅうぎゅうに詰め込んだら、どんな形や色になるのかを想像し、それをもとに、かく絵のイメージをもつ。</p>	<p>教師:画用紙(16 切り)</p> <p>児童:鉛筆、カラーペン</p>	<p>発想・構想を大切にする絵画題材であり、遊びの要素も大切に「自分マーク」をもとに絵に表す系列の題材である。</p> <p>一つの形をもとに、それを様々に変形させてイメージをつくっていく内容は、高学年にもつながる発想の基礎となると同時に、中学校美術においても、デザインの領域などにつながる。</p>
3学期・16時間	2時間 教科書 31 ページ	表現(1) 遊	 だんボールや場所のとくちようから思いつき、くふうして活動する	だんボール、切って、つないで	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、段ボールをいろいろな形に切ることをたのしみ、できた形をつないだり、組み合わせたりしながら、試すたのしさや発見する喜びを味わう内容である。</p> <p>室内のあらゆる場所とかかわりながら試し、気に入った表現をする。</p>	<p>関:段ボールを切ったりつないだりすることをたのしみながら表す。</p> <p>発:切った形をいろいろに組み合わせながらイメージをふくらませて表す。</p> <p>創:カッターナイフの扱いに慣れ、段ボールのつなげ方を工夫する。</p> <p>鑑:自分や友達の活動のよさやおもしろさに気づき、認め合う。</p> <p>【共】 材料とのかかわりの中で質感や大きさなどを身体的にとらえ、どこでどのような形や大きさを再構築していこうかというイメージをもつ。</p>	<p>教師:段ボール、カラー段ボール、片面段ボール、カッターナイフ、段ボールカッター、カッターマット、粘着テープ、ひもなど</p> <p>児童:段ボール、接着剤</p>	<p>3・4上で「だんだんだんボール」に取り組んだが、箱を組み合わせたり、積み上げたりという活動であった。</p> <p>ここでは、段ボールを切断して、思いに合わせた形へと組み合わせたり、接着したりして造形的操作を必要とする、より高度な内容になっている。</p>

学期	時間	指導要領	めあてと重点活動	題材名	学習の内容	評価の観点	主な材料・用具	小・中一貫の視点
3学期・16時間	4時間 教科書 32・33ページ	表現 (2) 立	 紙ねん土と身近なものを組み合わせて、思いついたものをくふうしてつくる	願いの種から	<p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、小さな願いや大きな夢をかなえてくれる「種」から芽が出たら、どんな花や実がなるのか、枝葉の形や種の形にも思いをふくらませ、つくりながら工夫する内容である。</p> <p>紙粘土や身近な材料を使って組み合わせを試し、自分の思いが形になっていくのしさを味わう。</p> <p>種は、「願いを思わせる形」を考え、紙粘土を使う。発泡スチロールを削ったり、段ボールを重ねたりして芯材にすることもできる。枝や葉、花や実に見える身近な材料の特徴を試し、つくりたいものに合った材料を選んで伝える形にしていける。</p>	<p>関：身近な材料に興味をもち、自分の願いや夢を伝えるたのしさを味わいながら取り組む。</p> <p>発：試しながら表したいことを見つけ、形や色のよさを考えたり、材料を見立てたりする。</p> <p>創：身近な材料や用具の特徴を生かして組み合わせを試し、自分なりの表し方をくふうする。</p> <p>【共】 形や色、材料の組み合わせなどを試しながら、それらがつくり出す形の感じをとらえ、自分の願いをどういう感じで表したいのか、という自分なりのイメージをもつ。</p>	<p>教師：紙粘土（土台には重量のある石塑系、実になるものには軽量系がよい）、接着剤、段ボール、発泡スチロール、線材料（竹ひご、籐材、紙テープなど）</p> <p>児童：はさみ、カッターナイフ、絵の具、身近材料（牛乳パック、ペットボトル、紙皿、紙スプーンなど）</p>	<p>雑材による立体表現の系統である。</p> <p>低学年では、紙箱や透明容器、靴下などの布製の小物を材料として立体表現をしてきたが、その経験をもとに紙粘土（石塑）を主材料とした立体表現に取り組む。</p> <p>土粘土とは違った材質感をもつ材料での立体表現で、高学年の針金や、中学校美術での様々な材料による彫刻制作などにつながっていく。</p>
	2～6時間 教科書 34・35ページ	表現 (2) 絵	 つたえたいことをカードにしてたのしむ	※ハッピーカード	<p>☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。</p> <p>ここでは、自分が経験したことの中から、感動したこと、発見したこと、想像をふくらませたり、自分なりの方法で工夫したりしてたのしんだことなど、伝えたいことを絵葉書やカードにして表す内容である。</p> <p>今までの経験を生かして材料や表現方法を工夫して、自分なりの表現をたのしむ。</p> <p>できた手紙やカードを相手に送り、感動を造形的に伝えるたのしさを味わう。</p>	<p>関：自分の体験や感動を絵に表し、相手に伝えることをたのしむ。</p> <p>発：感動したこと、想像したことなど、表したいことを思いつき、どのような方法で表すか、構想を練る。</p> <p>創：表したいことが相手に伝わるように材料や表現方法を工夫する。</p> <p>鑑：実生活の中で伝え合うことの喜びを味わい、互いの表現のよさを感じ取る。</p> <p>【共】 伝えたい言葉に合うような形や色、組み合わせの感じをとらえ、つくりたい自分なりのカードのイメージをもつ。</p>	<p>教師：葉書大の画用紙、絵の具、遊びの際の試作品など</p> <p>児童：水彩用具一式、カラーペン、布や木の葉など自分の表現に必要な材料</p>	<p>「伝え合うことから発想する」系列の題材で、1・2下の「ひらいて見てね、わたしのえてがみ」からつながっている。</p> <p>この題材では、にじみを生かしたり、木の枝を貼りつけたり、墨で文字を書いたり、これまでに学んだ経験を様々に生かすことができる。</p> <p>さらに、紙を折ってカードにするなど、一人ひとりの経験を生かした工夫を認めていきたい。</p> <p>伝えたい相手と考えた造形は、中学校美術のデザイン領域にもつながる題材である。</p>

3学期・16時間	4～6時間 教科書 36 ページ	表現 (2) 絵	 さかさまに見ると、ちがう顔に見える絵をくふうしてかく	※くるっと回って、こきげんいかが	☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。 ここでは、割りピンなどを中心に複数の画用紙が回転する仕組みを使って表現する内容である。 盛岡の民芸品である「けっちゃ面」がそうであるように、回転して表情が変わったり、人物が入れ代わったりする顔をかく。また、その回転して表情が変わる顔から想像を広げ、土台となる画用紙に胴体や場面などをたのしみながら表現していく。また、友達と見せ合いながら、お互いのおもしろいところや工夫したところなどを認め合う。	関：回転する仕組みや顔の変化に関心をもつ。 発：変化する顔を思いつき、回転する仕組みをもとに発想を広げる。 創：回転する仕組みから、工夫しながら絵に表す。 鑑：自他のよさをたのしみながら認め合う。 【共】 しかけのある絵をかくことを通して、形や色、組み合わせなどをとらえ、自分の表したいイメージをもつ。	教師：画用紙、割りピン、目打ち、シールなど 児童：鉛筆、水彩用具一式、これまでに経験した描画材、はさみ	「伝え合うことから発想する」系列の題材で「ハッピーカード」と選択題材になっている。 この題材は、伝え方にユーモアや見立ての能力が必要とされるので、中学年らしいやや高度な内容となっている。 「伝える、伝達する」意図をもった造形は、伝える相手に一番伝わりやすい造形を考えるという点で、中学校のポスターなどのデザイン領域につながっていく。
	6時間 教科書 37 ページ	表現 (2) 工	 みんなで作ったランプの美しさを味わったり力を合わせててんじしたりする	ゆめいろうらなぶ	☆心を開いて友達のことを知り、材料をたのしむ題材である。 ここでは、色セロハンや油性マーカーなどの光を通す材料で、自分の気に入った模様をペットボトルなどの透明容器に施し、中から発した光に色をつけてたのしむ内容である。 また、つくったランプを複数集めることで美しさが大きく変わることを経験し、それらの並べ方や展示の方法を工夫したり、さらには暗くした部屋の天井や壁などに反映された模様などを意図的につくったりする。	関：ランプの光から想像を広げ、より美しく見えるための関心をもつ。 発：材料や色の組み合わせを考え、試しながら発想を広げる。 創：光を通すとどのように見えるか工夫し、構成や図柄を意識して表現する。 鑑：自他のよさを認め合い、また集合することで生まれる効果を味わう。 【共】 ランプをつくって協同で飾ることを通して、光を透す形や色の組み合わせなどをとらえ、自分なりのイメージをもつ。	教師：油性マーカー、色セロハン、針金、アルミホイル、カッターナイフ、ペンチ、目打ち、ランプ (LED ライト) 児童：ペットボトル、はさみ、身近材料	中学年最後のまとめの題材である。 総合的なかかわり合いを必要とする題材の系列で、低学年では、「ピコリンせいのカラフルパーティー」からつながっている持ち寄り共同的な題材である。高学年での共同制作へとつながっていく。 また、中学校美術の工芸のランプシェード制作につながっていく。

頁	指導 要領	題材 名	学習の内容	主な材料・用具
1 ジ 教科書2～4 ページ	鑑賞	館 小さな美 じゅつ	巻頭の「小さな美術館」では、各学年の子どもたちの興味・関心にあわせた作品を掲載するだけでなく、それぞれの作品について鑑賞の観点のうちの一つを吹き出しで入れた。また、1ページ大で扱う作家作品を必ず取り上げ、教室での鑑賞資料として十分に対応できるようにした。 ここでは、「みんなのせかい」というサブタイトルで、生活の中にある情景を描いた作品を中心に掲載している。	
ジ 教科書6・7 ページ	鑑賞	ゆめをかた ちに	子どもたちがその学年で出会う材料や表現方法を使っている作家の作品と子どもたちへのメッセージである。 ここでは、美術家の藤井雷さんに登場していただき、絵封筒に表した作品から思いをこめてかき続けること、つくり続けることの大切さを子どもたちに伝えてもらった。	
ペ ジ 教科書18・19 ページ	表現 (2) [工]	ナ ひらめき コー	☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う活動である。 ここでは、厚紙の造形紙を使って簡単にできる紙工作の動くおもちゃを提案している。	教師:色画用紙、色厚紙、段ボール、アルミ針金、化学接着剤、はと目、はと目パンチなど 児童:色紙、はさみ、カッターナイフ、輪ゴム、ストロー、接着剤など
1 ジ 教科書38 ～40 ページ	鑑賞	1 みんなの ギャラリー	暮らしを豊かでたのしいものにするために造形が果たす役割は大きい。そのために、子どもたちに関心をもてそうな行事や祭り、イベントなどを紹介している。 ここでは、「みんなでいっしょに」「間伐材を使って」「伝統の技を学ぶ」「教室をとびだして」「日本の祭り」の五つのテーマでくくっている。	
ジ 教科書41 ～43 ページ	表現 (2) [絵] [工]	パ レット コー ナー	道具は、造形活動においては、材料とともになくてはならないものである。子どもたちも自らの思いを実現させるために、道具の正しく合理的な使い方を知ることが大切なことである。そのための手引きのページである。ここでは、のこぎりおよび小刀の使い方について掲載した。木工作をするときに活躍する道具であるが、いろいろな学習や活動の場面で使われるので、繰り返し活用し、自分の手のように扱えるようにしたい。 「ざいりょうはたからもの」では、材料を集める一つの視点として、「もう一度使えそうなもの」を提案している。 また、「パレットコーナー」では、にじみや重色、混色など、水彩絵の具のいろいろな表し方を示している。	
教科書裏表紙	鑑賞	身 近 な と ころ で つ な が る 造 形	「つながる造形」をテーマに、各学年に応じて、情景写真や授業写真などを掲載し、図画工作科からつながっていく、あるいは、広がっていく内容を掲載している。ここでは、「身近なところで」のサブタイトルで、身のまわりにはすてきな形や色がたくさん潜んでいることを知らせたい。	